

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターさの かりん(放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 24 日 ～ 2025年 2月 21日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 1月 24 日 ～ 2025年 2月 21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児が安心して通所できる環境を整えている。 ・こどもの思いや考えを否定せずに、寄り添う姿勢を持つ。 ・保護者支援の充実。	・個別支援の充実。 ・こどもの成長や変化に応じた支援を行っている。 本人支援・保護者支援について、ご家族に寄り添い、傾聴し、個別支援計画に基づき、ニーズに応え支援をしている。 ・保護者からの相談がしやすいように、利用児の日々の様子を情報共有を心掛けている。	・定期的に自己評価を行い、支援の質を継続的に見直す。 ・他の支援機関と連携を強化し、こどもたちに多様な体験を提供していく。
2	児童発達支援から、放課後等デイサービスへの移行にあたり、移行支援に力を入れている。	放課後等デイサービスへの移行について、年長児のお子さん、保護者が不安なく移行できるように11月から3月にかけて実施している。 送迎車体験なども事前に実施している。	児童発達支援から、放課後等デイサービスへの移行について、かりんの児童発達支援からの移行だけではなく、引き続き、他の児童発達支援事業所の利用のお子さんにも、保護者にも不安なく、移行できるように支援をしていく。
3	専門的な資格を持つ職員を多く配置している。	専門職のアドバイスを受け、支援に役立てている。 ・嘱託医より、定期的にレクチャーをうけ、研修の機会を作っている。	今年度も実施していたが、外部の研修にも参加し、事業所内で報告し、共有していく。

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育教材の福祉機器の導入。	実用的な内容・効果と予算の兼ね合い。	福祉機器展に、活用方法も含め見学に出向いている。
2	記録や実績をバーバレス化が遅れている。	一部導入しているが、実用的な面で不具合がある為、ソフト会社との調整をしている。	ソフト会社と今後実用化に向けて、進めている。
3	集金関係のキャッシュレス化。	集金関係のキャッシュレス化については、保護者への混乱を防ぐために、記録や実績のIT化が定着してから導入がスムーズであると考えている。	記録や実績のIT化の定着後の始動予定。